

大田区立新井宿福祉園

令和3年度事業計画

1. 運営方針

「地域と共にある」

- ①利用者の権利と尊厳を守り、一人ひとりの個性と可能性を尊重した支援を行い利用者が地域で暮らし続けられることを目指します。
- ②利用者のニーズを把握し、効果的なサービスの提供と効率的な事業所運営に努めます。
- ③家族、関係機関、地域社会との連携を図り、利用者の自立を目指した運営に努めます。
- ④情報公開等により、透明性の高い運営に努めます。

2. 職員等配置計画

職員 24 名 非常勤職員 5 名 嘱託医 2 名 専門講師等 2 名 合計 33 名

3. 今年度の重点目標

法人重点推進事項 (3)質の高い支援(虐待防止・権利擁護) (1)事業の機能強化			取組時期
1	利用者がエンパワメントしていただける機会の提供	内容 利用者個別の「できること」「喜び」「幸せ」「創造性」に基づく関係づくり 楽しさ、目的と意図を持ったプログラム内容の再編 利用者の心情(何をしたいのか、何を伝えたいのか)を汲み取るコミュニケーション支援の拡充	通年
法人重点推進事項 (2)地域公益活動の推進			
2	地域における安心・安全のための相互協力関係の強化	内容 感染予防と並行した地域交流活動・ボランティア受入の再開と方法の模索 新井宿スペシャルデーの開催※協議中 地域行事・地域防災活動への参画と人的資源の協力 施設開放と障害理解啓発(学習)の場づくり準備	通年
法人重点推進事項 (1)事業の機能強化 (4)福祉人材の確保・育成・定着			
3	関係機関との連携 現場から役割・専門性を「知る」「まなぶ」	内容 アウトリーチ活動の継続と地域生活支援現場への積極的な同行・参加 法人事業へのバックアップ体制の検討・整備 地域ソーシャルネットワークとの連携、専門支援に特化した事業所・人材との関係形成	通年
法人重点推進事項 (5)活力ある組織・経営基盤づくり (4)福祉人材の確保・育成・定着			
4	職員が育み合い、生き生きと働ける職場体制づくり	内容 想像力、共感力を育む事例検討の積み重ね サービス向上に関する助言・生の声「疑問・質問・気づきあい」を伝えあえる環境・関係づくり キャリアパスに基づいた育成計画とOJTの実践	通年

		既存の形態にとらわれず提供できるサービスの追 及と推進組織づくり	
--	--	-------------------------------------	--

4. 利用者受入計画

在籍	43名	新規利用者	1名	定員	40名
年間開所日数	238日	利用率目標		82.7% (昨年度比0.1%アップ)	

5. 年間行事計画 (詳細別紙)

4月	入所式	10月	大田区しょうがい者の日のつどい 近隣施設・学校訪問活動
5月	グループ懇談会	11月	新井宿地区・スペシャルデー 作業体験交流会 総合防災訓練・学習会等
6月	グループ別外出	12月	グループ別外出 利用者自治会企画活動・表彰会
7月		1月	成人を祝う会、グループ懇談会 利用者自治によるお楽しみ会
8月	運動交流会 文化の森夏祭り 利用者自治会企画活動・表彰会	2月	民生児童委員懇親会
9月	宿泊旅行	3月	グループ別外出 ボランティア懇親会 利用者自治会企画活動・表彰会

6. 虐待防止・権利擁護の取り組み

*平成31年3月の「障害者虐待防止特別委員会答申書」に基づく取り組み

「虐待防止に向けた体制づくりと組織の取り組み・仕組み等の活性化」

	実施項目	具体的取組
1	虐待防止 権利擁護	「徹底した現場主義の事例検討を軸とした（寄り添う）伴走型支援で自立型権利擁護へ転換を推進する」 *「法人サービス利用者の権利擁護規程」「社会福祉法人大田幸陽会サービス提供ガイドライン」等を踏まえた支援 *「虐待防止対応要綱」に基づく法人および事業所虐待防止・人権委員会の取り組みの推進(事例検討や研修実施、事業所の経営層・リスク各会議と連動する) 個別支援に基づく身体拘束解消・虐待（事故）防止の点検
2	苦情解決	「苦情解決制度に関する要綱」に基づいて適切に対応
3	個人情報保護	「個人情報保護規程」および「特定個人情報取扱規程」に基づいて適切に対応

7. 人材確保・育成とサービスの質向上の取り組み・研修計画(*事業所計画)

*平成31年3月の「障害者虐待防止特別委員会答申書」に基づく取り組み
「専門性に基づく支援のスーパーバイザー育成」

	実施項目	具体的取組
1	OJT・職場内研修	<p>目的：利用者の思い・ニーズに寄り添う専門職としてのキャリア形成、職場の研修ニーズアセスメントに基づき、継続的かつ効果的な人材育成の実施、加齢・重度化・多様化の障害特性への専門的支援強化</p> <p>新任職員OJT、キャリア形成シート等活用の職員ヒアリング (業務を通じて)支援マニュアル類を活用した支援業務引継・OJT事例検討…ヒヤリハット(ニヤリホット)活動、リスクマネジメント会議(分析・改善点検討)、身体拘束に係る支援アプローチの(行動制限の解消へ向けた)検証、個別支援計画モニタリング会議</p> <p>講習…虐待防止、疾患・障害特性、サービス等利用計画・個別支援計画(書式理解活用)、応急救護、感染症予防対策、接遇(共有)就業規則、キャリアパス、サービス提供ガイドライン、利用契約書式</p>
2	外部研修	東社協階層別研修、職種別の専門性研修及び講師派遣(医療・支援技術・会計・労務等、苦情対応)、他法人・他分野の先進事例等の見学、事業所間交流研修(特に地域生活支援事業所)、受講内容発表の機会創出
3	自己研鑽支援	資格取得支援(法人の仕組みによる) 研修情報等の提供・書籍等の購入・回覧・貸出
4	各種マニュアル整備	「ほっとマニュアル」の活用と見直し、間接業務の平準化 緊急時対応マニュアル→実践場面对応等で適宜活用・振り返り

8. 地域公益活動の推進

	実施項目	具体的内容
1	地域まつり	新井宿地区スペシャルデー(実行委員会・各種小委員会) 文化の森夏まつり、新井宿盆踊り準備への参加 新井宿地区連合運動会への参加
2	地域交流行事	運動交流会(大森三中) 作業見学・体験交流(入二小5年生) 訪問活動・休み時間交流(入四小) 作業交流(新井宿民児協：煎餅作業等) 毎週火曜 自主製品販売・納品(特別出張所外販・ふれんど)

3	環境美化活動	「自治活動」等での活動(廃油→城南信用金庫・ペットボトルキャップ→サミットへ届ける)、夏期の打ち水
4	新規取り組み	新たな地域公益活動の検討と試行(コミュニティースペース提供、新規ボランティア受入、外部見学者等の給食試食会)

9. 地域・関係機関連携

	実施項目	具体的内容
1	地域交流・連携	「8, 地域公益活動の推進」に記載の内容に準ずる 地域生活支援事業所との連携強化(相談・緊急一時・居宅・GH・その他困難事例ケースへのアウトリーチ支援) 法人内の他事業所との連携強化(利用者の交流活動含む)
2	福祉人材受入	職場体験(中高)、保育実習(専)、介護等体験(大) ボランティアの継続的受入(民生委員含む)
3	広報活動等	新井宿福祉園だより発行(近隣地域にポスティング)、園内活動通信等(内部向け)、園内活動DVD編集・貸出、ライブラリー等の公開・情報掲示、HPの整備と情報発信

10. 法令遵守に関する取り組み

*平成31年3月の「障害者虐待防止特別委員会答申書」に基づく取り組み

「経験職員等の多様な人材を活かしあう事業所づくり」

	実施項目	具体的取組
1	法令遵守	法令遵守推進に関する関係法令・条例・法人諸規程等に基づき適切に対応 法人ハラスメント防止規程に基づき、ハラスメントの防止策に取り組む
2	「働きやすい職場」づくり	「TOKYO 働きやすい福祉の職場宣言」の継続した取り組み推進及び、「働き方改革」に対応した法人の取り組みとの連携 ガイドライン活用と環境整備…諸規程、手引き等の見える化や共有機会設定 職場内のコミュニケーション活性化や職員相談窓口等の活用(福祉サービスと職員の在り方を全員で話し合う機会の設定)

11. 危機管理計画

	実施項目	具体的取組
1	事業継続計画	事業継続計画(BCP)策定に関する事項の整備、推進および訓練等の実施

2	防災関連	定期防災訓練・福祉避難所開設訓練検討および学習会 地域防災施設・防災運動への参画 *災害時を想定し、非日常性と日常性が連動した利用者の安心環境・プログラム整備の検討 感染症予防的観点の健康管理プログラム整備の検討
3	緊急時対応	「緊急時対応マニュアル」により対応

12. その他

令和2年度福祉サービス第三者評価受審結果を踏まえた改善計画に基づき、サービス向上に向けた取り組みの実施

○特に良いと思われる点

タイトル1	地域社会との連携でボランティアに協力してもらい、利用者の活動の場を広げて施設の存在意義をアピールしている
内容	民生児童委員協議会との煎餅づくり、町会と連携した裁縫作品作り、保護者との刺繍・染色製品づくり等、地域ボランティアの参画した活動を継続し、作品の紹介・展示・発表機会の拡充に努めていく。
タイトル2	利用者の主体性を引き出すためのコミュニケーションツールの活用により、利用者の意欲につなげている
内容	個々の障害特性に合わせたハード環境の再整備、プログラムの再構築と個別化のさらなる充実を図り、利用者個々に合わせた支援により利用者の能力引き出しに取り組んでいく。
タイトル3	個別支援計画の作成手順が明確になっており、担当職員それぞれが立場・役割を担っている
内容	個別支援計画のPDCA管理の推進を継続し、利用者アセスメントの理解・浸透を図っていく。特にコミュニケーションにおける意思疎通支援をさらに充実できるよう取り組んでいく。

○さらなる改善が望まれる点

タイトル1	キャリアパスに基づく育成計画を実践し、職員のスキルアップと施設が求める人材育成が期待される
内容	OJT・育成計画の伴走型実施による成長機会を確保し、直接支援だけでなく間接支援との両面におけるソーシャルワークスキル向上に向け、人間関係形成力や接遇力を備えていく育成計画の実践に努める。
タイトル2	相手を育てて自分も育つ、ケアリング力向上と職場の中心になるコア人材の育成が求められる
内容	実践と学習を重ね、利用者ニーズに即応する支援ができる職員の姿を求め、組織および職員の在り方を全員が話しあえるような機会の設定と確保を継続していく。
タイトル3	利用者の地域生活を見据えて、一人一人に合わせたコミュニケーションの取り方のさらなる工夫が求められる
内容	将来、利用者の望む生活の中で、何を欲しているのか、何を伝えようとしているのか、意思を汲み取る方法を工夫・確立することで自立した生活の幅を広げていく取り組み（意思決定支援）に力を入れていく。